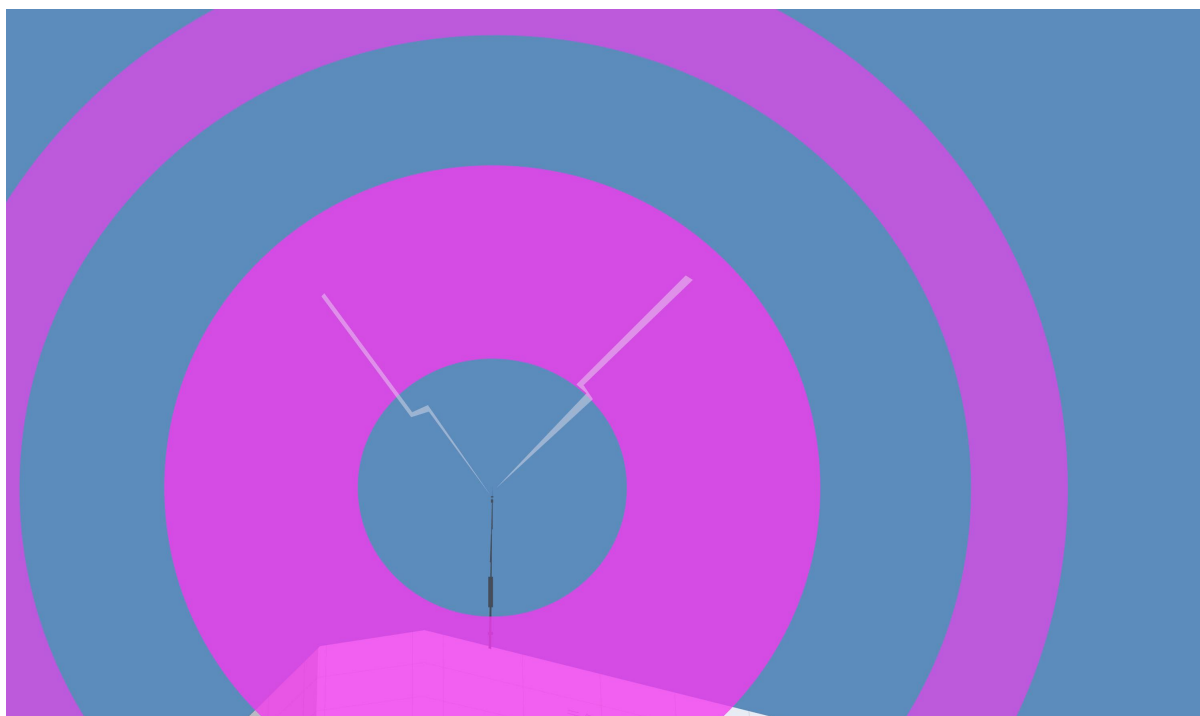


MAHO KUBOTA GALLERY
ブライアン・アルフレッド展「テクノガーデン」のご案内
Brian Alfred
TECHNO GARDEN



《Techno Garden》 2017, animation still

©Brian Alfred / MAHO KUBOTA GALLERY

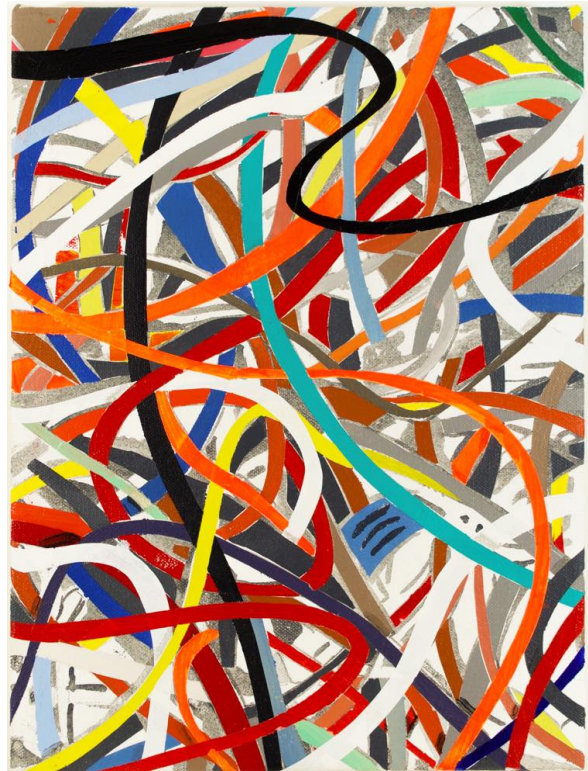
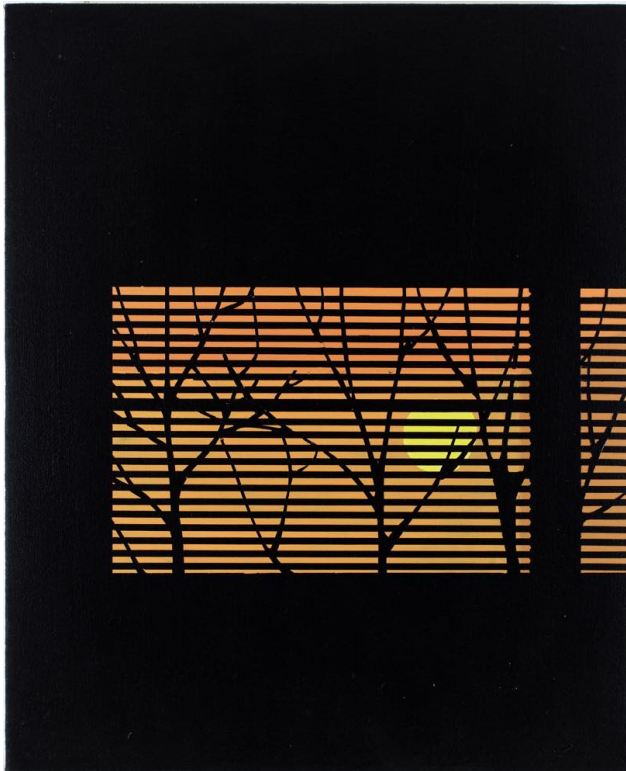
MAHO KUBOTA GALLERY ではブルックリンを拠点とするアメリカ人アーティスト、ブライアン・アルフレッド新作個展「テクノガーデン」を開催いたします。

展覧会「テクノガーデン」は大小の新作ペインティングと映像アニメーション作品で構成されます。展覧会タイトルと同タイトルとなる映像作品はゴーストリー・レコーズ所属のアメリカ人ミュージシャン、ローガン・タカハシの音楽とのコラボレーション作品となります。

テクノロジーの発展への人あくなき欲求、一方では自然との共生。現代社会を生きる私たちは常にこのふたつの要素のバランスの中で日々を暮らしています。相対するように見えるふたつは、実際には単純な対立構造にあるわけではありません。アルフレッドのペインティングに描かれるオフィスビルの風景、高速道路や絡まったコンピュータケーブル、夕焼けや森林火災、高架道路のイメージは、科学と自然が複雑な均衡をとりながら現出している私たちの現代の世界を象徴しています。すべての事象はつながり、そのパワーバランスの均衡が崩れることで、思わぬカタストロフィーが起こることもある予測不能の未来に向かって私たちは生きています。テクノロジーのもたらすユートピアと、ディストピア。そしてすべての生命の源でもある一方、時に人智を嘲笑するように牙を

むく自然の脅威。いずれの要素にも危険と美しさが共存し、その前で人類は、発展への欲望の是非を判断されず留め置かれたままにされているのです。

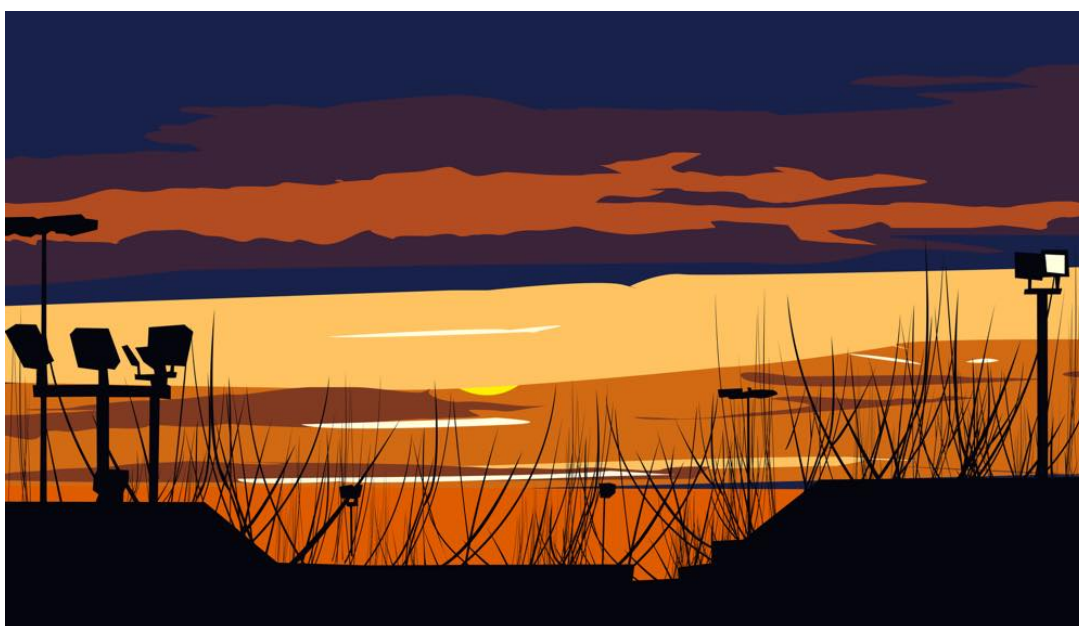
アルフレッドの代表作のひとつであり、彼自身の少年時代の忘れられない事件を描いた映像作品、「The Saddest Day of My Youth (一番悲しかった日の思い出)」(2011年文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞)を例にとってみましょう。この作品はアーティスト本人が少年期にテレビを通して目撃したスペースシャトル・チャレンジャー号の爆発事故がシンプルな形と色彩のみで描かれたアニメーション作品です。ここでもアーティストはテクノロジーを手に世界の発展を希求する人類の姿と、夢の潰えるはかなさを対比させ、強烈な印象を残すことに成功しています。自然界という与えられたステージの中でひたむきに前進を渴望する現代の人類の状況は、アーティストのキャリアを通しての大きなテーマであると同時に、そのテーマはアーティストのコントロールを離れ、時代の動きを敏感に反映し、呼応し、変容し続けていくのです。アルフレッドは私たちが生きるこの世界のリアリティを、時にカタストロフィー的な視点から、時になにげない日常へのまなざしから丹念に描き出していきます。



右：《CABLES》 / 左：《NIGHT SHADES》ともに2017, acrylic on canvas

< 展覧会概要 >

展覧会名 ブライアン・アルフレッド展「テクノガーデン」
展覧会会期 2017年9月1日(金) - 10月5日(木)
 12:00-7:00pm
 会期中 日・月および祝日は休廊
 入場無料
会場 MAHO KUBOTA GALLERY
 東京都渋谷区神宮前 2-4-7 1F tel 03-6434-7716
 <http://www.mahokubota.com>



《Techno Garden》 2017, animation still

©Brian Alfred / MAHO KUBOTA GALLERY

ブライアン・アルフレッド

1974年ピッツバーグ生まれ。ブライアン・アルフレッドの作品には私たちを取り巻く世界の現状が強く反映されている。紛争や社会の混乱の問題から、自然の風景の美しさまで、そして相反するその二つの間にあるすべてを扱いながらアルフレッドの興味は、私たち社会を生きる人々がいかにして、あるいはどんな環境に身をおいているからこそ私たち自身であるかということ注がれている。アルフレッドはペインティング、コラージュ、アニメーション映像といった複数のメディアによって現代社会を表現している。エドワード・ホッパーやチャールズ・シーラーのようなアメリカの伝統的なペインターの影響を受ける一方、日本の浮世絵やポップカルチャーとの親和性も感じられる。アルフレッドの作品は世界各国の美術館やギャラリーで展示されており、同様にアニメーション映像も国際的な映像祭等で発表されている。グッゲンハイム美術館、ホイットニー美術館、サンフランシスコ近代美術館、デンバー美術館等多数の美術館に作品が収蔵されているほか、日本では2011年の_文化庁メディア芸術祭のアート部門で優秀賞を受賞、2015年より運行されている現美新幹線内でも映像アニメーション作品を発表している。